

# 平成31年度 政策大綱

## はじめに

『住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた』

将来都市像において「住みよいまち」とは、人々にとって暮らしやすい、住みたくなるまちであり、「健康」とは命を守ること、「田園」とは農業、すなわち産業、「文化」とは教育を示しています。命を大切にし、食べていくことができ、加えて、教育を充実していくことで、暮らしやすいまちの実現を目指しています。

当市には、四季を彩る山から海までの豊かな自然環境や広大な田園風景があり、また、その中で培われた歴史や文化、伝統といった貴重な財産は、市民の心を豊かにし、日々の生活の中において素晴らしいまちに住んでいることに気づかせてくれます。

近年、異常気象によって、これまでの生活を一変させる未曾有の災害が発生しており、市民の尊い生命を守り、かつ、先人たちから受け継がれてきた貴重な自然や財産が奪われるような危機にも、先んじて対処していくことが求められています。

こうした状況においても、長期的な展望を持ちながら「住みよいまち しばた」の実現に向けて、全力で取り組んでいくことが何より重要であり、行政と市民が手を携え「持続可能なまち」を築き、未来へと繋いでいかなければなりません。

我が国の共通課題である人口減少・少子高齢化は、引き続き深刻な状況にあり、様々な面に影響が及んでいますが、これまでも当市は、「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の3つの視点を重点に掲げ、戦略的に人口減少対策と地方創生、将来都市像の実現を目指してきました。

『健康田園文化都市・しばた』における、命を守る意味での「健康」においては、これまで「少子化対策」を最優先に進めてきましたが、今後、2025年に団塊の世代が75歳を迎え、さらに、2040年には、第二次ベビーブーム世代が65歳を迎える「超高齢社会」の到来に備えるため、新たに「健康長寿対策」に対応する視点を加え、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりの健康づくりを支援する「健康長寿アクティブプラン」を推進していきます。

人口減少・少子高齢化は避けては通ることは出来ませんが、市民が幸せに暮らせていると感じ、地域に誇りと愛着を持ち、積極的にまちづくりに参画できるよう、互いに支え合い、協力し合う、中間支援組織などの仕組みを活用しながら、「地域力」、「自治機能」を高め、「持続可能なまちづくり」を目指していきます。

「田園」すなわち「産業振興」では、引き続き、『人のインバウンド 物のアウトバンド』を掲げ、新発田市DMOの活動を推進します。基幹産業である農業では、農業者の育成や国際競争力を高める取組を進めるとともに、食品産業においては、高品質・高付加価値化によりブランド価値を高め、いずれにおいても、海外輸出を視野に入れた販路拡大に向けて、『稼ぐ・稼げる力』の育成に努めます。

また、「文化」、「教育の充実」においては、子どもたちが「夢」や「希望」を自ら実現できるよう、今後も、学力向上や生きる力を育むとともに、新発田人として誇りと自信を持てるよう、歴史や文化、伝統などを学び、ふるさとを愛する人を育てるため、「しばたの心(こころ)継承プロジェクト」を立ち上げ、新発田の特色ある教育の実現を目指します。

加えて、まちの土台とも言うべき、安心・安全なまちづくりをはじめとして、都市機能の強化に向けて、災害に備えた国土の強靱化に資する取組や、地域経済の活性化に向け、交流人口増加に資する取組なども継続的に進め、併せて、羽越本線・白新線の高速化・複線化に向けた方策についても、市民をはじめ、関係機関・団体と協力していかなければなりません。

先人から受け継いだこの大切な「まち・新発田」を、次の世代に引き継いでいくため、また、百年先のまちの礎を築くためにも、前例に捕らわれず、時代の変化に柔軟に対応する策を講じながら、これからも「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」の実現を目指し、今、目の前にいる市民はもとより、未来の新発田市民にもしっかりと向き合いまちづくりを進めていきます。

## ○「3つの視点」による「住みよいまち しばた」の実現

まちづくりにおいては、重視すべき3つの視点「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」を掲げ「住みよいまち しばた」を創造し、その実現に向け取組を進めています。

### 少子化対策

人口減少社会を迎える中で、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくためには、早急な取組が求められています。当市にとっても、子どもや若者世代の人口減少が喫緊の課題になっています。また、ライフスタイルの変化による若者世代の未婚化、晩婚化が進んでいることから、より多くの若者が結婚、出産の希望をかなえ、そして、安心して子育てができる魅力的な環境づくりを進めていくことが必要です。

### 産業振興

地方においては、未だ景気回復を実感するには至っておらず、人口減少・少子高齢化の進展により、当市の産業を取り巻く情勢は、依然として厳しい状況にあります。産業は、地域の魅力を高め、地域経済の向上、市民の暮らしを支える重要な役割を担うことから、当市の持つ豊富な地域の資源や特性を最大限に活用するとともに、商工業、農業、観光などが連携し、産業振興を進めていくことが必要です。

### 教育の充実

「教育の充実」の主たる対象は子どもたちです。グローバル社会の到来、核家族化、多様化する価値観など急激な社会の変化と、あらゆる分野における実体験の不足やコミュニケーション能力の不足が、子どもたちの間に様々な問題を引き起こしてきました。当市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を育むことが必要です。そのためには、望ましい教育環境の実現と教育の質的向上に加えて、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの教育の充実に取り組むことが必要です。

---

平成 31 年度は、しばた魅力創造戦略に掲げる「しごとづくり」「ひとの流れ」「結婚、出産、子育て」「まちづくり」の 4 つの基本目標や、当市が抱える課題に横断的に取り組み、3 つの視点を通じて、定住人口・交流人口の増加を図ります。

### ○ 農林業振興

農業においては、人口減少に伴う農業者の減少や担い手の高齢化より、農作物の生産性に大きな影響を与えることが懸念されています。市の基幹産業である農業を維持するために、引き続き農業経営の法人化を推進するほか、法人等が行う農作物の消費拡大に向けた販促活動や PR 活動への支援に取り組みます。

また、認証 GAP 取得を促進し、農産物のブランド化の推進や農業所得の向上を図るとともに、求人情報の提供などによる新たな担い手の確保に努めるほか、農業設備や農地の確保など、新規就農者の独立に向けた支援を充実します。

国内外への販路拡大では、新発田産農産物のブランド化の定着と輸出品目の拡大を図るとともに、国際基準の品質を確保するなど、アウトバウンドの推進を強化します。

林業においては、森林活用計画の策定を支援するとともに、計画に基づく事業を推進します。

### ○ 商工業振興と雇用の創出

中小企業においては、業況は回復傾向にあるものの、労働生産性は伸びが鈍く、設備の老朽化が生産性向上の妨げとなっています。

また、若者の就職希望者の減少とともに離職者も増加しており、人手不足が深刻な状況にあるほか、事業承継による企業の維持存続も課題となっています。

この状況を改善するため、中小企業の設備の更新や IT 化の支援によって生産性向上を図ります。また、ハローワークと連携して就職説明会を開催し、雇用確保を図るとともに、行政と企業のネットワークの強化によって情報共有を図り、事業承継や若年労働者の離職防止に取り組みます。

併せて、関係機関と連携した創業希望者への支援や、食品工業団地や市内遊休地への企業誘致など、多面的な支援を展開し「しごとづくり」を進めます。

また、年齢や性別、障がい等に関係なく、働き続けられる社会の実現に向けて、関係機関等と連携しながら、新たな雇用形態の創出や誰もが働きやすい職場環境の改善を図ります。

### ○ 新たな魅力の創出と観光振興

地方創生において、地域資源を活用した経済の活性化や交流人口・定住人口の増加に向けた取組が全国的に定着する中で、当市の地域特性を活かした取組やブランド化により、世界から注目される新たな魅力の創出が求められています。

観光面では、さらなる交流人口の増加に向けて、阿賀北地域の魅力を国内外に発信し、LCC を利用する個人の外国人旅行者をターゲットに、インバウンド誘客を強化するとともに、周遊ルートの検討や、二次交通の確保など、DMO を中心とした阿賀北広域観光圏の形成を目指します。また、月岡温泉を拠点とした市街地周遊観光を推進するなど、さらなる観光振興を図ります。

## ○ 定住促進・ひとの流れの創出

首都圏からの移住希望者や支持者が増加する中で、定住へ結び付けるきっかけが必要であり、地域資源の活用とアイデアによって生まれた魅力を、SNS などを通じて効果的に情報発信することが重要です。

定住促進では、首都圏から一人でも多くの移住希望者を迎え入れるため、引き続き、新発田の暮らしを肌で感じる交流体験や相談体制の充実を図り、新規の新発田ファンの獲得を目指します。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに着目し、スポーツ&カルチャーツーリズムを通じて、合宿等の誘致活動やアスリートの協力による情報発信を積極的に進めます。併せて、中心市街地におけるイベント開催など、民間企業等が活動しやすい環境や、創業希望者と空き店舗オーナーとのマッチングなど、創業しやすい環境を整えることによって、さらなる賑わいを生み出すとともに、ふるさと納税などを通じて関係人口・交流人口の増加を図り、定住へと繋がる「ひとの流れ」を創出します。

結婚・出産・子育て（子育て支援と充実、教育など）	
--------------------------	--

## ○ 子育て支援と子育て環境の充実

安心して子どもを産み育てられる環境を目指し、「しばた流子育て支援サイクル」を着実に進める必要がある一方で、子育てニーズが多様化し続けていることから、柔軟かつ計画的な対応が必要です。

今後も入園希望者の増加が見込まれることから、待機児童を発生させないため、保育士の確保や受け入れ体制の整備を進め、保育環境の充実を図ります。

また、引き続き男性の育児参加やワーク・ライフ・バランスを積極的に推進するとともに、子育て世代の精神的・経済的な負担軽減に努め、子育て世代を総合的に支援する体制を構築し、時代に合わせた子育て環境の整備を進めます。

## ○ 教育環境の充実

未来を担う子どもたちの育成については、快適な教育環境の整備を進めながら、「豊かな心」と「生きる力」を育むことにより、将来、自らの考えで夢や希望を実現していく子どもたちへと成長することが期待されます。

子どもたちが、安全で快適な学校生活を送るため、エアコンなど必要な施設等の整備を進めます。また、ICT環境の充実によって、時代の変化に対応できる人材を育成するとともに、さらなる学力の向上を目指します。併せて、若者が気軽に集い、話し、学習が行え、また、いじめや不登校を解消することで、子どもたちが安心して生活できる環境を整えるとともに、引き続き地域で行う学習支援の充実を図ります。さらに、新発田の歴史や文化などを学び、ふるさとに誇りと自信をもつ「しばたっ子」の育成に努めます。

### ○ 安心安全な暮らしと災害への備え

近年、異常気象に伴う暴風や豪雨、地震等は、想定を遥かに超える大規模災害を引き起こしています。当市では、防災情報の発信や自主防災組織の設立など、緊急時を想定した防災対策に取り組んできました。

今後は、市民一人ひとりの防災意識と地域の防災力をより一層高めるため、大規模災害を想定した防災訓練や防災教育を強化するとともに、災害発生時の課題について対応策を講じます。また、引き続きハザードマップやあんしんメールによる情報を活用した防災対策の推進に努めるとともに、災害時に着実に機能する自主防災組織とするため、市民参画を促し、避難行動要支援者の個別計画策定など、各組織の活動を支援しながら、市民に対する「自助」「互助」「共助」「公助」の意識啓発に努めます。

### ○ 持続可能な地域づくり

人口減少の進展やコミュニティの希薄化によって自治会の脆弱化が進み、地域のあり方が問われる中で、それぞれの地域が直面する課題を住民自らが解決し、地域を支え守りながら、文化、伝統、行事等を後世に継承する仕組みづくりが求められています。

持続可能な地域社会を実現するために、引き続き「中間支援組織」の活動を支援するとともに、市民が積極的に地域づくりに参画できる環境を整えます。また、超高齢社会を見据え、住民同士の支え合いによる「共生・協働による地域づくり」を推進し、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも元気で過ごせる地域づくりに取り組みます。

### ○ 新たな交流とまちの魅力の創造

「まちの顔」の完成により、中心市街地に新たな人の流れが生まれ、市民や学生が集う場として定着してきましたが、多くの人々が利用する魅力的な「まちなか」を形成するためには、「民」との連携を深めながら、さらに前進していくことが求められています。

中心市街地の「活気」と「賑わい」の形成に向けて、行政主体から企業や民間団体による効果的な手法も取り入れ、「まちの顔」を拠点に、子どもからお年寄りまでが楽しめる新たな交流の機会を創出します。また、点在する歴史的遺産や文化観光施設、街並みや景観等の魅力を再認識し、一体的な活用を図るなど、新たな「ひとの流れ」の創出に向けて検討を進めます。

さらに、高校生や大学生など、未来を担う若者の視点や価値観でまちの課題を解決する、新たなまちづくりの仕組みを定着させ、若者が活躍し活気に溢れるまちづくりを推進します。